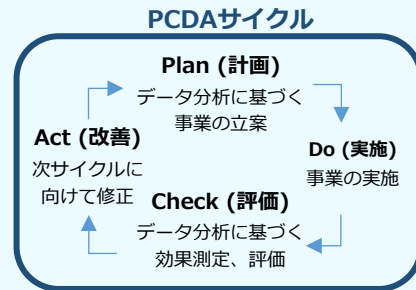


データヘルス計画

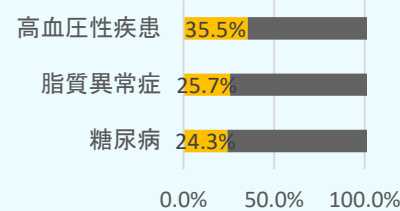
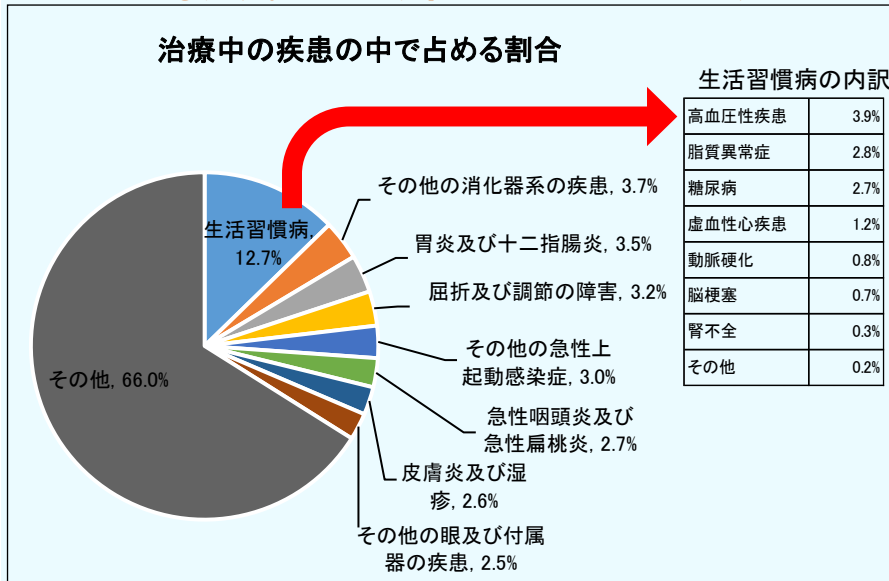
「有田市国民健康保険データヘルス計画」は、国民健康保険加入者みなさんの特定健診データ・レセプトデータを活用し、PDCAサイクルに沿った効果的かつ効率的な保健事業を行うための計画です。

データを活用することにより、有田市国民健康保険が取り組むべき健康課題を明確にし、計画を実施することで、国民健康保険加入者みなさんが、より長く健康な生活が出来るように支援し、また医療費の抑制につながるよう努め



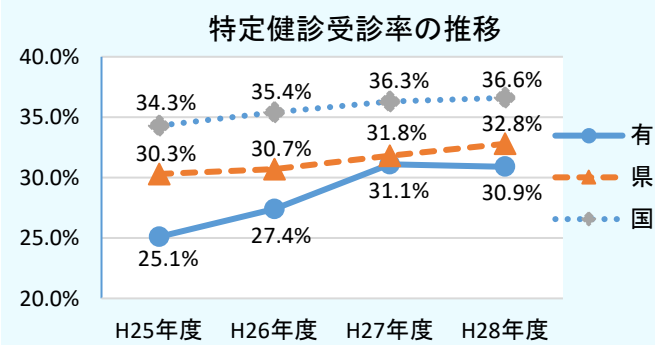
有田市国保の現状と課題

■どんな病気で医療機関へかかっている人が多い？

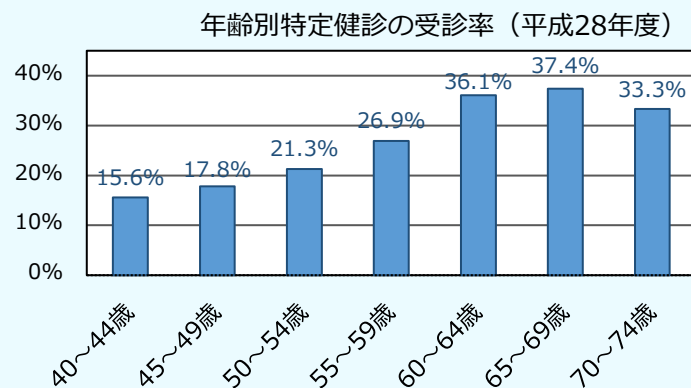


H28年度に医療機関を受診した8,707人のうち、高血圧性疾患患者は3,087人(35.5%)、脂質異常症患者は2,236人(25.7%)、糖尿病患者は2,118人(24.3%)と多い状況です。また、治療中の疾患の12.7%を生活習慣病が占めています。このような現況から、生活習慣病を予防、早期発見していく必要が

■特定健診の受診率が低い

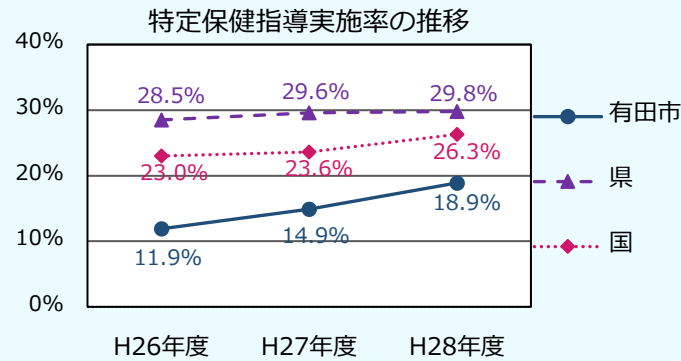


特定健診受診率は県や国と比べると低くなっています。受診率向上に向けて受診勧奨を行う必要があります。



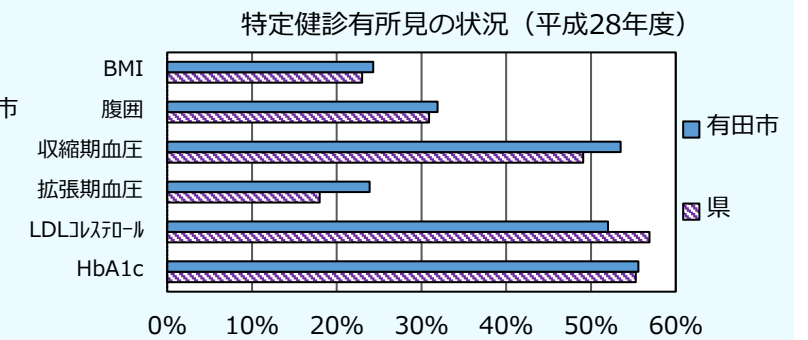
年齢別に特定健診受診率をみると、40歳代の受診率が低い状況です。特に40歳代の若い世代への受診勧奨を強化する必要があります。

■特定保健指導を利用する人が少ない



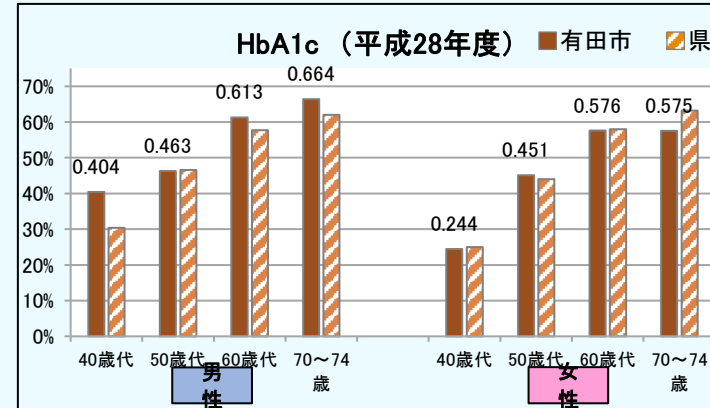
保健指導を利用する人が、県や国と比べると少なくなっています。勧奨方法を見直し、保健指導を利用する人を増やす必要があります。

■生活習慣病のリスクをもつ人が多い



収縮期血圧、LDLコレステロール、HbA1cでは、受診者の半数以上が有所見者となっています。特に収縮期血圧は、県と比べると高くなっています。生活習慣の見直しが必要です。

■男女別・年代別のHbA1c有所見者割合



HbA1cは、男女ともに年齢が高くなるにつれ、有所見者の割合が高くなっています。特に男性では50歳代以外の年代で県と比較して有所見者割合が高くなっています。



有田市の今後の取組

特定健診受診率の向上

生活習慣病予防のため、自身の健康に関心を持ち、毎年健診を受けるように、未受診者対策に努めます。特に40歳代の若い世代と、健診受診率の低い地区に対しては受診勧奨を強化し、受診率の向上を図ります。

糖尿病の重症化予防

糖尿病(糖尿病性腎症)の重症化を防ぐための予防プログラムを毎年実施します。プログラム参加者には6ヶ月間の保健指導を行います。

特定保健指導実施率の向上

生活習慣病の発症予防のために、特定保健指導の利用勧奨を工夫し、利用者の増加に努めます。

